

WHAT

イギリス・ロンドン大学 SOAS

文教育学部 人文科学科
比較歴史学コース 4年
三村佳緒

帰国して様々な人から、「留学はどうだった？」という質問を受けて、私は「大変だったけど楽しかった、というよりは、楽しかったけど大変だった、というのが正直な気持ち」と答えていました。帰国直後の率直な感想だったのだと思います。

一番大変だったのは、やはり勉強でしょうか。私は日本史を専攻しており、SOASでも日本史や日本文化関係の授業を主に受講していたので、日本史の基礎的知識はあったにも関わらず、やはり毎週課される大量の Reading をこなすだけでも一苦勞で、英語の講義を1~2時間聞くことも、ディスカッションで発言していくことも疲れるばかりで、最初は精神的にも辛い時期が続きました。ですが、そうした問題は英語力の向上によって次第に克服されていくと信じて地道に努力を重ねたことが良い結果に繋がったと思います。「Readingなんて余裕」なんてことは最後までありませんでしたが授業準備が苦痛になることは少なくなりました。エッセイを書くことも難関の一つでしたが、担当教授の元に足繁く通いアドバイスをもらいつつ書くことで、少しは慣れたと思います。

逆に、楽しかった思い出で大きな割合を占めるのは、やはりロンドンで出来た友達と過ごした時間です。寮に入っていたのでフラットで度々行われるパーティーに参加したり、授業を通して知り合った友達とロンドンのあちこちに出かけたり、長期休みには旅行にも行きました。ヨーロッパ各国に行ったことも良い思い出ですが、私は英国内の旅行を中心にしました。様々な英国の顔をみることができ、イギリス・ロンドンには留学前から個人的な思い入れがあったのですが、ますます大好きな国になりました。

ここまで書いてきて思うのは、ごくごくありふれた留学体験記になったなあ、ということです。考えてみれば当然のことなのかもしれません。留学というのはそんなに特別なことではないと私は思っています。場所をお茶大からロンドン大学 SOAS に移して、正規学生に混じって極普通の一学生として毎日を過ごした、ただそれだけのことです。留学というのは淡々とした日常生活の積み重ねだということを、これから留学をされる方には頭の片隅においてほしいと思います。なんてことのない日々の中に、新体験の欠片が常に散りばめられていて、それが大切なこととして、自分の糧として残っていることに気づくと思います。



10ヶ月の留学が十分満足できるものだったのかと問われると、自信をもって YES とすることはできません。自分の欠点を突きつけられる瞬間のほうが多かったような気さえします。それでも、留学をしたことに一片の悔いはなく、そのように留学を終えることができたことを嬉しく思います。支えて下さったすべての方々へ強く感謝し、この報告書を締めさせていただきます。